

たまいたま

川柳

第6回 彩栄賞発表号



巻頭言

間とくまじ

願法みつる

水墨画に描かれている対象物は、非常に矮小化され、簡素に表されて、そこでは空間的「間」の存在感が特徴なのだそう。特に鳥類や魚類などでは単体か少数の画が多い。問題はその目付きの先に描く想像の拡がりにあるらしい。全方位の興行きと時間さえも見えそう。言われてみれば日本画全般にも当てはまる。屏風絵や掛け軸では、その大小にかかわらず、空間の配置に工夫のあることが理解できる。今までその気になって観ていなかったのだ。盲目的鑑賞だったと反省する。日本独特の文化は、庭園の造作にみる樹木や生けや石の配置でも「間」の視点で眺めれば、世界が大きく変化する。事典に拠れば様々な意味合いが述べられる「間」も、曰く表し難く意味深な言葉のような気がする。単にリズムやタイミングだけのことではないと思える。意味付けの理屈よりも、様々な人間関係を含む生き様そして森羅万象にすら当てはまるのではないか。間を置く・間を配る・間を渡す・間を持たす・間を合わせる・間が持てない・間が抜ける・間が悪い。川柳活動でも。大会や句会の披露の流れの中にある「間」の大切さは、皆さんも各様に感得している筈だ。動と静音と視線が交錯する空間を、是非大事にしたい。

十二月号 目次

わたしの好きな句 青鹿 一秋	表紙
巻頭言 間ということ	願法みつる
彩玉集 同人吟	文・今村 寿子
古丘の世界	
第6回彩栄賞	
雑詠	
映像川柳	
七七句	
七七句選者決定	
七七句選者を担当致します	
「映像吟」の開始について	
ふるさと紀行「西宮の想い出」	
「Uターンして七年」	
交替鑑賞(十一月号より)	
川柳を楽しむ	
初歩添削講座「結論」雑詠	
初歩添削講座休載について	
担当終了の思い	
「初歩添削講座」卒業生に贈る言葉	
題詠	
「舞台」	垣塚 幸三
「隔てる」	岡田 秀夫
「ぼそぼそ」	岡野 輝男
さいたま十一月句会	
大会等ご案内	
編集さろん	
句会案内	
表紙(題字・清水 美江 写真・千葉 古丘)	

4 3 40 35 33 32 31 31 29 27 26 24 23 23 23 20 12 12 6 5 2 1 2

平成26年

12月号 (No.661)

日川協加盟